

STKN400/490 製品規格



建築構造用炭素鋼鋼管 (JIS G 3475)

規格	種類の記号	化学成分 %							引張試験					衝撃試験		へん平性 平板間の 距離 (H)	溶接部 引張強さ N/mm ²			
		C	Si	Mn	P	S	N	その他		降伏点または耐力 N/mm ²			引張強さ N/mm ²	降伏比 %	伸び			試験 温度 ℃	シャルピー 吸収 エネルギー J	
								炭素当量	溶接割れ 感受性組成	厚さ mm					試験片					%
建築構造用 炭素鋼鋼管	STKN400W	≤0.25	—	—	≤0.030	≤0.030	≤0.006	≤0.36	≤0.26	235 ≤			400 ~540	—	11号	23 ≤	—	—	2/3D	400 ≤
	STKN400B	≤0.25	≤0.35	≤1.40	≤0.030	≤0.015	≤0.006	≤0.36	≤0.26	235 ≤	235 ~385	215 ~365	400 ~540	≤80	12A号 12B号 12C号	23 ≤	0	27 ≤	2/3D	400 ≤
	STKN490B	≤0.22	≤0.55	≤1.60	≤0.030	≤0.015	≤0.006	≤0.44	≤0.29	325 ≤	325 ~475	295 ~445	490 ~640	≤80	4号	23 ≤	0	27 ≤	7/8D	490 ≤

- 備考) 1. 必要に応じて上記以外の合金元素を添加することができる。
 2. 炭素当量Ceq (%) = C + Mn/6 + Si/24 + Ni/40 + Cr/5 + Mo/4 + V/14
 3. 溶接割れ感受性組成P_{CM} (%) = C + Si/30 + Mn/20 + Cu/20 + Ni/60 + Cr/20 + Mo/15 + V/10 + 5B
 受渡当事者間の協定によって、溶接割れ感受性組成を炭素当量の代わりに適用することができる。
 4. 衝撃試験は、外径400mm以上で、厚さ12mmを超えるものについて行い、シャルピー吸収エネルギーは3個の試験片の平均値とする。
 5. 引張試験片は、JIS Z 2201の12A号、12B号、4号試験片のいずれかとし、管の管軸方向から採取する。4号試験片を採取する場合、試験片の中心部が外面側から1/4となるようにする。ただし採取できない場合は、なるべくこれに近い位置から採取する。
 6. 厚さ8mm未満の伸びの最小値は、厚さ1mmを減じることにより、上表の伸びの値から1.5%を減じたものを、JIS Z 8401によって整数値に丸める。
 7. 溶接鋼管の場合は降伏比を85%以下とする。
 8. 溶接部引張強さはアーク溶接鋼管に適用し、試験片は、管から切り取り平片とした後仕上げたJIS Z 3121の1号試験片とする。
 9. Al等Nを固定化する元素を添加し、フリーなNが0.006%以下であればNiは0.009%まで含有できる。
 10. 継目無鋼管の場合は、へん平性試験を省略することができる。ただし、特に注文者の指定がある場合は試験を行わなければならない。
 外径が300mm又は、厚さが30mmを超える電気抵抗溶接鋼管については、受渡当事者間の協定によって、へん平性試験を省略することができる。
 11. 降伏比の規定は、厚さ12mm以上の管に適用する。溶接鋼管の場合は、降伏比を85%以下とする。

JFE スチール 株式会社

<http://www.jfe-steel.co.jp>

- お客様へのご注意とお願ひ
- 本書に記載された特性値等の技術情報は、規格値を除き何ら保証を意味するものではありません。
 - 本書記載の製品は、使用目的・使用条件等によっては記載した内容と異なる性能・性質を示すことがあります。
 - 本書記載の技術情報を誤って使用したこと等により発生した損害につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。